

*京都府青少年育成協会会長賞

「社会や世界を見つめて」

南丹市立美山中学校 3年

梅 津 咲 羅

世界を驚かせたイギリスのEU離脱。

メディアは、イギリスが離脱することで関税率が上がり、世界の株価や為替市場に大きな影響が及ぶ恐れがあること・日本経済もその影響を受ける恐れがあること・関係する企業は経営方針などの見直しを迫られる可能性があることなどを、こぞって伝えました。この報道から「なぜイギリス国民はEU離脱を選んだのか。」とか「日本や私たちの生活にどんな影響があるのか。」と様々な疑問が浮かびましたが、「今、世界で何が起きているのか。」ということも含めて、正直よく分かりません。

でも、それらの報道の中に、深く印象に残っている場面があります。

ある女子高校生が、国民投票を振り返って、「残留派の若者が投票に行かず、離脱波の高齢者の多くが投票に行ったことがこの結果につながったと思います。私は残留に賛成でしたが、投票権がありませんでした。選挙権や投票権を16歳からにして、私たちにも意思表示の機会を与えてほしかった。」と答えていました。

16歳の高校生が自分の意見をしっかり持っているだけでなく、「自分の国の未来は自分たちで作っていくんだ。」という意志をはっきり表現していることに私は驚くとともに、彼女の考えに共感できました。そして、別の報道で、若い女性が、「私は離脱に反対でしたが、残留だと思い込んで、投票に行きませんでした。私のような考えで投票に行かなかった若者がたくさんいます。今回の結果は、投票した高齢者の考えに片寄ってしまったためかもしれません。」と後悔の念を述べている映像を見たとき、私も、政治や社会に無関心でいてはいけないと思うようになりました。

日本でも、2015年に公職選挙法の一部を改正する法律が成立し、選挙権が満18歳以上の人にも与えられました。そして18歳の人々が初めて投票に参加した7月の参議院選挙は大きな話題となりました。18歳といえば、まだ高校3年生です。私たちも、3年後には選挙で投票するということになります。

世界では18歳から選挙権を与えられる国が多いそうですが、実は、私は18歳で選挙権を持つのは「早いのではないか。」とっていました。しかし、選挙権引き下げの目的が日本の未来について、若者の意見を取り入れるということであり、「これからの日本を作っていくのは君たち若者なんだよ。」というメッセージだと考えると、それでよかったと思います。

確かに、18歳にとって選挙で投票するのは難しいことかもしれません。なぜならば、現

在の社会についてよく知らなければならぬし、「今の社会で何が必要で、何が足りないか。」ということをしっかり把握し、責任を持って投票することが大切になるからです。

私のクラスでもみんなの意見を聞き、全体の意志を決定する話し合いを行います。なかなか意見が出ず、最後は2、3人の意見で終わってしまいます。人の考えを知り、自分の考えと比較して改めて自分の考えを見直すことができるのが話し合いの本当の意義です。

3年後、私は選挙権を持ちます。難しくても、人の意見に頼らず、自分の意見を主張していかなければならないと思っています。だから今、日本や世界で何が起きているのか、広く情報を得て、深く考える姿勢を身に付けていきたいと思っています。